

海風通信

発行者：学校法人 了徳寺大学
理事長 了徳寺健二

〒279-8567 千葉県浦安市明海5丁目8番1号
TEL：047 (382) 2111 (代表)

第28号

28号 目次

【特集】新入学生の皆様へ

図書館報の
閲覧ができます。

図書館HPへ
Go !



「新入学生の皆様へ 学びながら美しく健康であれ！」

理事長・学長 了徳寺 健二 2-5

「大学で学ぶということ」

健康科学部長・医学教育センター長 檀 和夫 6-7

「図書館への誘い^{いざな}」

附属図書館長 池谷 壽夫 8-9

「この道を知って惑わず」

理学療法学科長 盆子原 秀三 10-11

「新入生を迎えて」

整復医療・トレーナー学科長 大澤 裕行 12-13

「自己成長を目指す — 人として、看護専門職業人として —」

看護学科長 佐藤 みつ子 14-15

「図書館HPを活用しましょう」 16-17

「図書館で資料を探しましょう（図書／雑誌） 編集後記」 18-24

新入学生の皆様へ 学びながら美しく健康であれ！

学 校 法 人 了 徳 寺 大 学
理 事 長 学 長 了 徳 寺 健 二

入学生の皆様、入学おめでとうございます。

心から歓迎申しあげますと共に、皆様の将来の人生成功の充足期間となりますよう、私達教職員一同、一致協力して努力の決意です。

人生成功の秘訣は多岐に亘りますが、最も大事なことは、皆様自身の体が生涯に亘って壮健であることが求められます。

私達の大学のスローガンのひとつは、**学びながら美しく健康になれる大学**としています。

それを達成するために入学された皆様に、了徳寺大学が開発したストレスフリー器を贈呈させて頂いたのは、そのスローガンの達成を目的としています。

了徳寺大学が開発致しましたストレスフリー療法は、私が探究した人類未知の体表点に、直径1.5ミリメートルの金とアルミからなる小さな導子を装着して、火傷しない48℃未満の熱を間欠的に30分照射する治療法です。

すると、ストレスによって高じた血中のストレスホルモンが有意に低減し、直後に現代医学では信じられない2倍から4倍もの血流増幅が起きるのです。

大幅な血流増幅によって最も期待されるものは、冷え性が改善され体温上昇が果たされることです。

私達の体温が1℃上がると、免疫力は5倍になると言われています。

了徳寺大学の整形外科を中心としたクリニックでは、医師やPT、柔道整復師などのスタッフが200名以上、昼夜に亘りそれぞれの地域で医療活動を行っています。

そのスタッフの皆様は、免疫力向上を目的として、週2回以上のストレスフリー療法の実施をお願いしておりますが、何と平均体温は36.5℃以上であることや、36.3℃以下のスタッフが皆無であることは驚くべき現象と言えます。その驚くべき効果は、ストレスフリー療法によることは論を待ちません。

2021年4月には了徳寺大学理学療法学科でクラスターが発生し、27名のコロナウイルス罹患者が発生しました。行政に報告しつつ、迅速な対応によって二次感染を防止できたことは不幸中の幸いでした。

そのような中、濃厚接触の学生の中でコロナウイルス感染と非感染を分けたのは、私達の予想通りだったのです。濃厚接触者の学生の中で「ストレスフリー療法」の実施者にはコロナウイルス感染は皆無だったのです。

このように「ストレスフリー療法」では、なぜ免疫力が高まるのでしょうか？

その理由は、大きく分けて3つあります。

その1つは「ストレスフリー療法」を実施すると、わずか1分で血中のストレスホルモンであるコルチゾールがほぼ100%の確率で低減し、ほぼ同時に血流が2倍から4倍も増幅します。

大幅血流増幅がもたらす恩恵は多岐に亘りますが、私達の免疫というカテゴリーの中では、血流の大幅増幅は全身の隅々まで血液が行き渡ることの意味すると同時に、免疫細胞の増加や活性化がもたらされることにあります。

全身に十分な血液が行き渡ることによって、全身を構成する60兆の細胞に栄養と酸素をくまなく送り届け、又、外敵から身を守る2兆にも及ぶ免疫細胞も養い、加えて免疫細胞は豊かな血流に乗って身体の隅々まで巡回してこそ果たされるのです。

しかも、私達が想像もできない精巧で精緻な免疫システムは、サイトカインと呼ばれるタンパク質によってコミュニケーションが果たされますが、それも血液によって作られています。

2つ目は、20歳をピークに減少し続ける成長ホルモンの分泌低下を食い止め、逆に分泌亢進させることでした。

私達の細胞が寿命を終えるとき、分裂して全く新しい2つの細胞へと生まれ変わりますが、成長ホルモンはこの時に必須のホルモンである他、体内でエネルギーを生み出したり、成長ホルモンが肝臓に働きかけて産生されるIGF1と補完し合いながら、人体のほぼすべての機能に必須のホルモンです。

加齢と共に減り続ける成長ホルモンを、私が見つけた顔面の法令線上にストレスフリーの導子を装着すると、成長ホルモンの分泌亢進が起きることを発見したのです。

そして3つ目は、私達の眼のまぶた上にある私が発見したP点と呼ばれる未知の体表点に導子を装着し、ストレスフリー器による温熱を照射すると、頭部への血流が2倍から4倍に増えることを発見したのです。



この3つのそれぞれ異なるカテゴリーの総和によって、全身の血流が2倍から4倍に増え、体温上昇と共に免疫力が上がるだけでなく、老眼や白内障などがたちまち治るなど、私達の身体に若返りが起きることを発見したのです。

私は人体が若返ると、全ての病気は治ると考えていますが、現代医学が治せないパーキンソン病や緑内障に著効がある事が判ってきました。正に医療革命が起きつつあると言えます。

了徳寺大学の研究チームは、これらの治験を欧米の科学ジャーナルに投稿し、日本初の誇れる医療技術として発信し、世界中にこの技術を普及させ、人々の古からの願いである不老長寿を超えて、若返り革命を起こし、あまねく平和で健やかな世界の実現を願っています。

新入学生の皆様には、世界に誇れる医療技術を開発した了徳寺大学の学生である誇りをお持ち頂くと共に、学びながら美しく健康になられ、その4年間の学びが皆様の成功の礎となりますことを心から御祈り申し上げます。

温灸器 ストレスフリーアパラス II



関連書籍のご紹介

血流を増やせば健康になる

体のすみずみまで
たっぷり血液が行きわたる健康法

了徳寺健二著 奥村康監修



『血流を増やせば健康になる：体のすみずみまでたっぷり血液が行きわたる健康法』了徳寺 健二著 奥村 康監修 アスコム（2018.3）⇒ 教員執筆図書コーナー(請求記号：492.5||Ry)にあります。

大学で学ぶということ

健康科学部長・医学教育センター長

檀 和夫

小学校、中学校、高校と12年間の勉強に引き続いて大学での学びが始まりました。引き続いてと書きましたが厳密には大学の学びは単に小中高の勉強の延長線上にあるわけではなく学びの質が違います。小中高では基本的には身に付けるべき知識を教え込まれる勉強（受け身）で、様々な問題点を自ら見つけて考えるということが不得手です。これに対して大学での学びは授業で得た知識の概略、方向性から疑問点、問題点を自ら見つけ（自発的）、それを自ら成書、参考書、論文等多くの本を読み自ら解決するというのが基本です。この自ら問題点を見出しそれを解決する能力を「知恵」と言います。

「知恵は知識に勝る」とはパスカル（フランスの哲学者、物理学者）の有名な言葉です。

あなた達は医療人になるという目標を持っていますが、医療人には患者さん達とスムーズなコミュニケーションをとり良好な人間関係を築く力が要求されます。この人間力、人間性、知性、教養を身に付けるために最も大切なこと、それは本を読むことです。読書は漢字・単語・言い回しといった言語能力が身に付くだけでなく、想像力・判断力・批判力・感性といった人間力を磨いてくれます。特に患者さんの気持ち・思い・生活状況・経済状況等に思いを馳せることができる「想像力」は医療人にとっては必須の資質でしょう。専門書を読んで勉強し、多くの本を読めば読むほど疑問点や考えるべき問題点が見つかるはずです。その一つ一つをしっかりと考えていって下さい。その積み重ねが人間性や人間力を磨いてくれるはずです。

最後に「個人的な」お勧めの本を記しておきます。

福岡伸一著：『生物と無生物のあいだ』、『できそこないの男たち』、

『動的平衡：生命はなぜそこに宿るのか』

三木成夫著：『内臓とこころ』

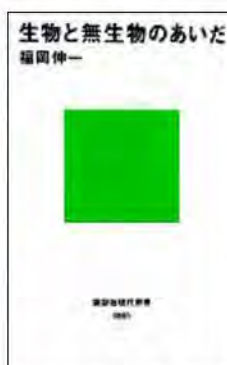
片田珠美著：『一億総ガキ社会：成熟拒否という病』

マークス寿子著：『日本はなぜここまで壊れたのか』

俵 万智著：『あなたと読む恋の歌百首』

杉浦日向子著：『合葬』、『百日紅』、『風流江戸雀』、『東のエデン』

檀 和夫先生のお勧めの本は、7月に入荷予定です。貸出できますので、ぜひ読んでみてください。



(講談社現代新書)
講談社 2007.5



(光文社新書)
光文社 2008.10



(小学館新書)
小学館 2017.6



(河出文庫)
河出書房新社 2013.3



(光文社新書)
光文社 2010.7



草思社 2006.10



(文春文庫)
文藝春秋 2005.12



(ちくま文庫)
筑摩書房 1987.12

図書館への誘い^{いざな}

附属図書館長 池谷 壽夫

新入生のみなさん、了徳寺大学へのご入学おめでとうございます。すでに入学して2か月近くになろうとしています。大学での生活と学習の仕方に少しは慣れたでしょうか。

僕が大学に入学して友達と話していて最初に気づかされたのは、ただひたすら覚え込むことがこれまでの僕の勉強であったということでした。そして、こうした勉強の仕方について、「それは本当の学習ではないよ」と教師の誰一人として言ってくれなかったことについての口惜しさと哀しさでした。

こうした事態は今も変わらないようです。ある授業で、新入生が「何を覚えればいいのでしょうか」という質問を授業の振り返りで書いてきました。この質問には二重の意味でびっくりしました。1つは、このような質問を率直にしてきたことへの驚きです。僕自身は授業の中で、何が大事なポイントなのか、自分の頭で考えることが大事だと思っていたのに、こういう質問をされてきたからです。もう一つは、学生たちが覚えることが学習だとこれまでの教育のなかでこれほどまでに思い込まされてきたのかという驚きです。

たしかにあなた方は、教師から教え込まれた知識をまるごとと言われるままに、あたかも銀行にお金を貯めるように頭の中に詰め込む、こうした他律的な「銀行貯蓄型教育 banking education」(パウロ・フレイレ)を受けてきたのでしょう。でもこれからは、こうした学習は通用しません。もちろん基礎的な知識は覚える必要があります。外国語を習う場合には、まずは文字とその発音、文法、文章の構造などを覚える必要があるように、です。しかし、それはあくまで学習の基礎でしかありません。「本当の学習」はそこから始まるのです。つまり、授業を受け教わったことを受けて、本を読んだり、友達と議論したり他者の助けを借りながら、自分の頭で考える自律的な批判的な思考・学習が求められます。